

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和6年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2024-1	自転車DX技術を活用したサイクルルート等の整序化に向けた技術開発	文教大学 准教授 松本 修一	B
<p><研究の概要></p> <p>DX 技術を自転車等に適用する事で、1. 自転車の快適な走行空間の創出に向けた情報支援施策、2. サイクルルートの効果的な維持管理に資する情報基盤の構築、3. 自転車の新たなヒヤリハットの類型化を行う。</p> <p><中間評価結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別テーマはそれぞれ計画に沿って進められている。 ・一方で、各個別テーマ間の連携、全体としてどのような研究目標を達成するのか、研究成果を誰が使って誰に寄与するのかについての見通しが明確でない。よって、指摘事項に留意しながら現行のとおりに推進することが妥当であると評価する。 <p><今後の研究計画・方法への指摘事項等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究全体としての目標と見通し、その達成を見据えた際の各個別テーマの位置づけや関連等を明確にされたい。 ・「自転車注意喚起システム」について、現場のニーズや実務の状況を踏まえた上で、現場に導入可能なシステムを提案できるよう、今後の研究計画を適切に設定されたい。 ・「走行快適性評価」については、わだち掘れを含む路面状態と指標の因果関係を明確にしつつ、指標の活用方法を想定しながら解析・研究を進められたい。 ・実験ルートは研究上必要性の高い箇所を厳選し、効果的、効率的に研究成果を得られるよう実施されたい。 ・実験ルートが各地に点在する研究は一定の統一した視野で進められることを期待する。 ・実験ルート選定の際には想定する路面状況の差異の再現についても検討されることを期待する。 ・採択時の要望事項である「現場において具体的な安全対策を導くことができるような成果」として、本研究により可能になる各種評価指標の算出やヒヤリハット事象の抽出の結果に対して、道路管理者等がとるべき対応方法まで提案できるように研究を推進されることを期待する。 ・学会発表や研究の工学的検証などにより研究レベルの高度化が図られることを期待する。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第53回新道路技術会議において審議したものである。